

復 命 書

令和8年7月21日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	原 口 泉
研修会名等	鹿児島県町村議会議長会 議員研修会
期 間	令和8年5月13日（水）
内 容	今回の町村議会議員研修会は「ハラスメントのない議会を目指して」と、「激動の国際情勢と日本の安全保障―地政学リスクへの対応」がテーマとなっていて行われた。「ハラスメント研修」では、当然時代の流れとして禁止するだけではなく、議会、組織全体が安心して実施できる議会運営、つまり「心的安全性」が担保されることが重要であると解説された。その予防・対応の考え方として、「5つD（Distract, Delegate, Document, Delay, Direct）」が説明された。また、個人の資質だけではなく、上下関係や組織風土、コミュニケーション不足など複合的な要因を考えながら、問題を捉えて対応していくことが重要であると説明をされた。 安全保障では、米中関係の変化、ロシア・ウクライナ情勢、中東問題など国際情勢などの変化と日本を取り巻く地勢的リスクが説明された。今後はアメリカ中心の安全保障体制が変化していくことが考えられて、東アジア情勢の緊張について解説があった。
所 感	今回の研修に於いて、多様な意見や立場を尊重し会える議会運営が行えて、住民も含めた、安心して発言ができる議会環境が重要であると感じました。ハラスメント問題は今後も議員の立場や、住民としての立場など全体的な視界で取り組み、相談や意見がしやすい、建設的な雰囲気づくりを実践できればと思います。 安全保障問題は、大変厳しい問題であり、対応であると感じました。我々としては、今後も国際情勢や情報を常に留意し、見守ることが重要であり、それに備えた食料やエネルギー、地域のコミュニケーションの在り方などを地方でも考えながら、地域づくりを行っていくべきだと考えました。
添付資料	

復 命 書

令和 8 年 6 月 19 日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議員 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	清水幸祐
研修会名等	鹿児島県町村議会議長会 議員研修会
期 間	令和8年5月13日（水）
内 容	今回の町村議会議員研修会では、「ハラスメントのない議会を目指して」と「激動の国際情勢と日本の安全保障 ― 地政学リスクへの対応 ―」をテーマとした講演が行われた。ハラスメント研修では、単にハラスメントを禁止するだけではなく、議会や組織全体において、誰もが安心して発言・相談・挑戦できる「心理的安全性」を高めることの重要性について説明があった。また、ハラスメント予防・対応の考え方として「5つのD（Distract、Delegate、Document、Delay、Direct）」が紹介され、被害者本人だけではなく、周囲の第三者も含めて組織全体で防止に取り組む必要性が示された。さらに、問題発生時には個人の資質だけではなく、上下関係や組織風土、コミュニケーション不足など複合的要因から捉える視点が重要であるとの説明があった。 安全保障講演では、米中関係の変化、ロシア・ウクライナ情勢、中東問題、認知戦の拡大など、国際秩序の変化と日本を取り巻く地政学リスクについて説明が行われた。特に、従来のアメリカ中心の安全保障体制が変化しつつある現状や、東アジア情勢の緊張について解説があった。
所 感	今回の研修を通じ、議会運営においては、多様な意見や立場を尊重しながら、誰もが安心して発言できる環境づくりが極めて重要であると改めて感じた。 ハラスメント問題については、単に個人間の問題として処理するのではなく、組織全体の課題として捉え、相談しやすい雰囲気づくりや建設的な対話を積み重ねていく必要性を強く感じた。また、「心理的安全性」が確保されることで、議会としてより活発で建設的な議論につながると感じた。 安全保障講演では、現在の国際情勢が大きく変化し、不安定化が進んでいる現状を改めて認識した。その中で、日本には一定の防衛力や抑止力を維持しながらも、外交努力や対話による緊張緩和を重視していく姿勢が必要であると感じた。また、安全保障は国だけの問題ではなく、地方においても、防災、食料、エネルギー、地域コミュニティの維持など、地域の持続性を高めることが国全体の安定につながると感じた。
添付資料	

復 命 書

令和 8年6月22日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	中村かよ
研修会名等	鹿児島県町村議会議長会 議員研修会
期 間	令和8年5月13日（水）
内 容	ハラスメントのない議会を目指して～指導とハラスメントの違いとは～ 激動の国際情勢と日本の安全保障ー地政学リスクへの対応ー
所 感	ハラスメントのない議会を目指すには、まず性別や立場に関わらず公平なる 評価を受けられる環境を作ることにより、かつ安全に政治活動や行政監視に 専念できることが重要である。 日本の立場を踏まえつつ、刻一刻と変化する国際情勢に対応しつつも自立し た国家として揺るぎない態度で隣国の脅威に向かうことが重要である
添付資料	

復 命 書

令和 8 年 5 月 19 日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	小玉秀行
研修会名等	鹿児島県町村議会議長会 議員研修会
期 間	令和8年5月13日（水）
内 容	講演1 「ハラスメントのない議会を目指して ～指導とハラスメントの違いとは～」 講師：涌井美和子 講演2 「激動の国際情勢と日本の安全保障 一地政学リスクへの対応一」 講師：兵頭慎治
所 感	感想：講演1：「ハラスメントのない議会を目指して」 「最近の傾向」として、議員活動における6つのケースでのハラスメントの例、残りは、アンケートや統計データの紹介、その後、セルフチェック、法律、リスク、予防策といった内容であった。 セルフチェックでは、17の項目のうち、思い当たる部分もあり、参考になった。 ただ、今回は議員向けの講演ということであったので、一般的なハラスメントの説明だけでなく、議員という一般の人と異なる環境で活動する人が陥りやすい考え方や行動、そして議会運営等でも起こる発言、行動を考察し、その対策を教えてほしかった。 例：強い権限、上司不在、昭和型の男社会、票ハラ等。 感想：講演2：「激動の国際情勢と日本の安全保障 地政学リスクへの対応」 日本には、戦争は起こらないと思っていたが、この講演を聞くと、少し心配になってきた。自らは戦うつつもりはなくても、相手が攻めてくるというケースもある。 有事となった場合、軍事施設や、通信、エネルギー施設が真っ先に標的となる。肝付町の場合、鹿屋航空基地や自治体のインフラ、通信基地、そして、川内原子力発電所の影響を受けるかもしれない。 生活基盤の破壊、停電、物流の確保、放射能飛散対策等、自然災害に加えて人的災害（戦災）に対する備えも必要と感じた。 避難計画、避難所、停電対策、安否情報確認、防災意識、防災グッズ等。
添付資料	

復 命 書

令和 8年 5月15日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	前原 和幸
研修会名等	町村議会議員研修会(主催:鹿児島県町村議会議長会)
期 間	令和 8年 5月13日(水)
内 容	演題:「ハラスメントのない議会を目指して～指導とハラスメントの違いとは」 講師:オフィスプリズム代表 臨床心理士 涌井 美和子氏 1.最近の傾向 2.セルフチェック 3.法律と定義 4.ハラスメントのリスク 5.ハラスメント予防策 まとめ
所 感	1.最近の傾向として、各議会におけるハラスメントの事例の紹介があり、そのことによって引き起こされた、問題点の説明があった。また、議員が受けたり、行った相手の調査結果や裁判例の説明があり、我々は、心理的安全性の高い議会を目指し、年齢や性別、経歴などにとらわれず、全員が自由に発言できる環境づくりが大切であると認識した。そのために必要な事は、定期的な教育、研修等を行い、より具体的な予防策を学ぶべきという事である。 2.セルフチェックを行い、自らも行為者になりうる自覚を持つべきだ。 3.法律と定義では、各種法律において様々なハラスメントが定義されており、知ることが大切である。 4.ハラスメントのリスクは、受け手側は時間の経過とともに悪質化し、心身の健康を損ない、そのダメージは計り知れない。行為者にも、法的責任や社会的制裁が科せられる。 5.予防策としては、礼節を重んじることが重要であり、常に他人の存在を意識して寛容さや敬意と配慮を行き渡らせ、他人への思いやりや配慮が欠けた無礼な言動は厳に慎むべきである。誰もが行為者予備軍であり、一人一人の意識の向上が、ハラスメント予防の鍵である。
添付資料	無し

復 命 書

令和 8年 5月15日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	前原 和幸
研修会名等	町村議会議員研修会(主催:鹿児島県町村議会議長会)
期 間	令和 8年 5月13日(水)
内 容	演題:「激動の国際情勢と日本の安産保障―地政学リスクへの対応―」 講師:防衛研究所研究幹事 兵頭 慎治氏 地政学リスクとは 特定の国や地域の政治的・軍事的・社会的な緊張の高まりが、周辺地域や世界経済全体の先行きを不透明にするリスク。具体的な現象として、戦争、テロ、災害、政変、貿易摩擦、パンデミック、技術革新等がある。具体的な影響として、経済活動(物価高騰、サプライチェーン分断)、金融市場(株価、為替の変動)企業経営(事業継続、サイバー攻撃)があります。 複雑な国際情勢に対応するための「地政学リテラシー」=国家の地理的な位置や地形、気候などの「地理的条件」が、国際政治や軍事、経済に与える影響を読み解き、現実的なリスクを管理する能力を養うことが重要です。
所 感	地政学リテラシーとは、国家の地理的な位置や地形、気候などの「地理的条件」が、国際政治や軍事、経済に与える影響を読み解き、現実的なリスクを管理する能力のことで、動乱の現代において、自国が置かれた立ち位置を正確に把握し、生き残るために重要視すべきと考える。重要な3つのポイントとして、空間的思考:「隣国とは対立しやすい」「海洋国家と大陸国家は利害が異なる」など、不変の地理的条件から国家の行動パターンを予測すること。歴史的背景: 地理的な条件が歴史の中でどのように利用され、現在の国境や紛争、同盟関係につながっているかを理解すること。地経学(地政学)の理解: 単なる領土争いだけでなく、サプライチェーン(物資の供給網)や先端技術、エネルギーなどを武器として使う「経済安全保障」の視点も含まれること。まとめとして、米中対立の激化やウクライナ戦争、中東情勢の緊迫化などにおいて、国家間のパワーゲームや「地政学リスク」は、企業の経営や私たちの日常生活(物価や資源の確保など)に直接影響を与えるようになりました。このリテラシーを磨くことで、感情や理想論に流されず、国際情勢の本質や自国の取るべき戦略を冷静に判断できるようになるとされており、大変重要と考える。
添付資料	無し

復 命 書

令和 8 年 5 月 18 日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	進藤 鈴子
研修会名等	鹿児島県町村議会連合会 議長会 肝付・曾於郡町村議会議長会 議員研修会
期 間	令和8年5月13日(水)
内 容	・ハラスメントのない議会を目指して ～指導とハラスメントの違いは～ 講師； オフィスプリズム代表 臨床心理士 涌井美和子氏 ・激動の国際情勢と日本の安全保障 ＝ 地政学リスクへの対応 ＝ 講師； 防衛研究所研究幹事 兵頭 慎治氏
所 感	パワーハラスメント、セクシュアルハラスメント、ジェンダーハラスメント、SOGIハラスメント等について講義されました。その中でもあまり耳にしないSOGIハラスメントとは、性的指向や性認識に関連した差別的な言動や嘲笑、いじめや暴力などの精神的、肉体的な嫌がらせのこと。または望まない性別での学校生活や職場での強制異動、採用拒否や解雇などの差別により、社会生活上の不利益を与えることとある。 ハラスメントのリスクとして・心身の健康を損なう・自尊心が低下する・精神的にダメージを受けやすくなる・日常生活が損なわれる。 また、メンタルヘルス問題との関連では、・睡眠障害・神経過敏・動機などが挙げられている。 ハラスメントの予防策には ・I(私)を主語としたコミュニケーションを意識する ・挨拶、お礼、お詫びなど基本を大切にすることである。 礼節の重要性として自己を客観視する機会を持つことが礼節ある言動の鍵である。 一人一人の意識の向上が予防のハラスメント予防の鍵でもある。 激動の国際情勢と日本の安全保障について ～地政学リスクへの対応～ タイトルの中の「激動」とは現在の表現である。現在のウクライナ戦争、イラン戦争など国際安全保障はない。 先生の講話のなかで、ロシアはウクライナ侵略で領地を剥奪した。今後も可能性ある領地まで憲法で書き換えてしまいそれを確保するまで戦いは続くと言われた。また北朝鮮はロシアへ1万人の兵士を送ったその見返りに、北朝鮮の1年分のお金が流れたようだ。台湾有事ではロシアは中国に支援する。2026年の地政学リスクとして、アメリカはトランプ大統領が辞めても政策は変わらない。台湾有事、北朝鮮のミサイル、ロシアと北朝鮮の同盟など、より不透明かつ不確実な時代に、日本の安全保障への影響として、自国の防衛力、他国への抑止力の強化が必要であり、複合事態の備えも必要である。
添付資料	

復 命 書

令和8年6月2日

議長	局長	次長	係長

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	吉原 光
研修会名等	鹿児島県町村議会議長会 議員研修会
期 間	令和8年5月13日(水)
内 容	1. 講演：ハラスメントのない議会を目指して～指導とハラスメントの違い～ 講師：オフィスプリズム代表 臨床心理士 涌井美和子 氏 ・最近の傾向と実態：議員の約46.5%がハラスメントを経験している実態と、SNS等での誹謗中傷事例の紹介。 ・法律と定義：パワーハラスメントは「優越的な関係」「業務上の範囲を超えた言動」「就業環境を害すること」の3要素を満たすものと定義される。また、政治分野における男女共同参画推進法についても解説された。 ・予防策：アンガーマネジメント（数を逆から数える、その場を離れる等）や、「私は～と思う」という「I（アイ）」メッセージを用いたコミュニケーション、そして他者への「礼節（リスペクト）」の重要性が説かれた。 2. 講演：激動の国際情勢と日本の安全保障 ―地政学リスクへの対応― 講師：防衛研究所研究幹事 兵頭慎治 氏 ・国際情勢の分析：ウクライナ情勢や台湾海峡問題など、現代の国際社会における地政学的リスクの高まりと、それが日本の安全保障に与える影響について解説がなされた。 ・日本の対応策：緊迫する情勢の中で、「力による現状変更」を許さないための防衛力強化と、日本がとるべき安全保障政策や国際協力の在り方について、専門的な知見から展望が示された。
	1. 講演：ハラスメントのない議会を目指して～指導とハラスメントの違い～ ・内閣府の調査で議員の約46.5%がハラスメント経験があるという実態に驚くとともに、自分自身が「無意識の加害者」になり得るという指摘を重く受け止めた。 ・正当な指導とパワハラとの境界線は、相手へのサポートや合意の有無にあることを学び、特に若手議員や職員に対して、主語を「私」にする「Iメッセージ」を用いた、より建設的な対話の重要性を痛感した。 ・議会内での「礼節（リスペクト）」の欠如は、単なるマナー違反にとどまらず、組織全体のパフォーマンス低下やメンタルヘルス悪化に直結することを肝に銘じ、日頃の挨拶や言葉遣いから徹底していきたい。

所 感	2. 講演：激動の国際情勢と日本の安全保障 ― 地政学リスクへの対応 ― ・地政学的リスクの高まりが、単なる国際ニュースではなく、エネルギーや食料価格の高騰といった形で地域住民の生活を直撃している現状を再認識した。 ・国の安全保障政策を理解した上で、地方自治体として取り組むべき防災や避難体制の整備、住民保護の在り方について、議会でもより現実的な議論を深める必要があると感じた。 ・「力による現状変更」が懸念される緊迫した情勢の中で、地域から日本の平和と安定に寄与できることは何か、広い視野を持って町政の舵取りに参画していく覚悟を新たにした。
添付資料	なし

復 命 書

令和 8 年 6 月 19 日

議長	局長	次長	係長

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	高田 美春
研修会名等	町村議会議員研修会
期 間	令和 8 年 5 月 13 日 (水)
内 容	「ハラスメントの防止、議会を目指して ～ 指導とハラスメントの防止とは～」 オフィスプロイズム代表 臨床心理士 涌井美和子氏 「激動の国際情勢と日本の安全保障 — 地政学リスクへの対応 —」 防衛研究所研究幹事 兵頭慎治氏
所 感	・ ハラスメントの 8割 は「精神的な攻撃」 ・ 心理的安全性の組織風土は職場のいじめや嫌がらせ及びハラスメント問題と負の関連がある。 ・ ハラスメントではないもの …… ① 組織のルール維持に必要な適正な責 ② 正当な指示命令 ・ 行為者が負うリスク …… ① 法的責任 ② 裁判等による社会的制裁 ③ ネット等による情報拡散 など ・ 組織が行為者を備える。一人一人の意識の向上が予防の鍵である。 ・ 国際情勢と安全保障は無関係ではない。石油価格が変動、石油製品不足。具体的な影響は、物価高騰、株価、為替変動など… - 世界的な安全保障、経済体制の転換、経済の混乱と危機のリスクが高まる。 - さらに… 中東とウクライナの争い、東アジアの安全保障環境の悪化、ウクライナからの日本への安全保障への影響、防衛力、抑止力の強化が日本は必要。不確実な時代
添付資料	

復 命 書

令和 8 年 5 月 21 日

議長	局長	次長	係長

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	柳 一夫
研修会名等	県議長会主催、議員研修会
期 間	令和 8 年 5 月 13 日 (水)
内 容	場所、 於、ホテルウェルビコー かこしま 講演、 ハラスメントのない議会を目指して～ 指導とハラスメントの違いとは 臨床心理士、涌井美和子氏 講演、 激動の国際情勢と日本の安全保障 防衛研究所幹事、 兵頭慎治氏
所 感	ハラスメントに於ては、最近の傾向を語られ、セルフ チェック、これに対する法律と定義、その、ハラスメントの リスク、予防策と語られ、我々も深く考えさせられる。 又、激動の国際情勢では世界の三大国、アメリカ ロシア、中国と新聞、テレビ報道道にあるように 世界がどうなるか、案じて いる事を語られ 我々も人々のために危惧する、ところである。
添付資料	

復 命 書

令和 8 年 7 月 21 日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	益山 正一
研修会名等	所お議会議員研修会
期 間	令和 8 年 7 月 13 日 (金)
内 容	別紙の通り
所 感	別紙の通り
添付資料	

別紙

内容

「ハラスメントのない議会を目指して～指導とハラスメントの違いは～」

オフィスリズム代表 臨床心理士 涌井美和子氏

最近の傾向や実例、法律巻毛を含めた講習

所感

近年、セクハラやパワハラ等が巷間、よく話題になる。どの程度がそれに当てはまるのか私自身判断に困るときがある。今回の講習である程度理解できたかと思う、
しかしながら、意図しないものもあろう。それは発言の中で十分な配慮のなさからくるもの
だとしたら、なお一層細心の言葉選びに注意し選別の上、行うべきであると感じた。

別紙

内容

「激動の国際情勢と日本の安全保障―地政学リスクへの対応―」

防衛研究所研究幹事 兵頭慎治氏

ロシア、ウクライナ戦争やアメリカ、イランの紛争など事案をあげ日本にとっての地政学や影響、そしてこれから日本はどのようにしていくべきかの研修

所感

日本を取り巻く国際情勢には複雑で理解に困るようなものが多数存在している。そのような中、国際社会では大きな紛争が、2~3勃発している。細かにみるとそれ以上かもしれないが、我々が、新聞紙上で見るのはそこらあたりであろう。これらを受け、日本の防衛体制は現状で十分なのか不安を覚えるのは、私だけではないと思う。今回の研修で大きな視野を持った講師の話からむ同様の感じを受けたが、これからも、十分に注視し、地方議会からも問題提起をすべきか考えてゆきたい。

復 命 書

令和 8 年 5 月 18 日

議長	局長	次長	係長

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏 名	水 村 實 馬
研修会名等	議長会主催研修会
期 間	令和 8 年 5 月 13 日 (水)
内 容	ハラスメントのない議会をめざして ～指導とハラスメントの違いとは～ 合同会社 ワイズ・プリズム 三浦井美和子氏 敬愛の国際情勢と時の安全保障－地政学リスクへの対応－ 防衛研究幹事 箕頭慎治氏
所 感	三浦井氏の講演を拝聴し、自分では気がつかない所で 相手にハラスメント的な言動をしていないか考える事があった。 相手に不快感を与える様な言動は厳に慎むべきと 自覚した研修である。 ○箕頭氏の講演では核保有国のアメリカ、ロシアが中東にウクライナ 戦争を引き起こしていること。核無保有国が世界で9ヶ国ほど 我が国の安全保障への密威を感じる事がある。
添付資料	

復 命 書

令和 7 年 6 月 19 日

議長	局長	次長	係長
			

肝付町議会議長 様

以下のとおり報告いたします。

氏名	有留 智哉
研修会名等	鹿児島県町村議会議長会 議員研修会
期間	令和8年5月13日
内容	(1) ハラスメントのない議会をめざして ～指導とハラスメントの違いとは～ 講師： 合同会社オフィス・プリズム 公認心理師・社会保障労務士 涌井 美和子 氏 ・ ハラスメントは心の弱い人がする傾向があり、公衆の面前での叱責は許されない。 ・ ハラスメントへの対応策として「アクティブバイスタンダーの5D」(DISTRACT、DELEGATE、DOCUMENT、DELAY、DIRECT)がある。 ・ 世代間ギャップに基づくハラスメントを防ぐには、日頃からのコミュニケーションと心理的安全性の高い職場づくりが重要。 ・ ハラスメントの線引きは個別の判断が必要であり、時間経過とともにエスカレートする。 ・ ハラスメントをする人はアンガーマネジメントができていないとし、具体的な方法(カウントバック、グラウンディング、タイムアウト、呼吸リラクゼーション、イメージリラクゼーション)が紹介された。 ・ 予防策として、決めつけず責めないコミュニケーション、I(私)を主語にした話し方、パーソナルスペースへの配慮、礼節の重要性が強調された。 (2) 激動の国際情勢と日本の安全保障 ー地政学リスクへの対応ー 講師： 防衛研究所研究幹事 兵頭 慎治 氏 ・ 世界は戦争が日常化し、核保有国が戦争をする激動の時代に入った。地政学リスクは、特定の国や地域の緊張が世界経済の先行きを不透明にするリスクである。 ・ 2024年以降、アメリカの変質が世界最大の地政学リスクであ

	り、2025年の世界リスクではトランプ2.0により米国のリスクが増大すると指摘された。 ・ ロシアと中国の連携が進み、米軍の関与がないという確信が、台湾作戦開始のきっかけになるリスクがある。 ・ 現代の戦争は、領土の奪い合いに加え、安いドローンによる首都への空からの攻撃や暗殺が特徴。 ・ 2026年の地政学リスクとして、米国の変質（民主主義国家の分断）と戦争の長期化が挙げられ、「自分の国は自分で守る」必要性が強調された。
所感	（１）ハラスメントの判断基準が個別的で線引きが難しいこと、また、指導のつもりでも相手にとってはハラスメントになり得ることを再認識した。特に、礼節を重んじ、自分の価値観を脇におき「Iを主語にしたコミュニケーション」を意識することが、議員間の心理的安全性を高め、ハラスメントの予防につながると確信した。今後は、アンガーマネジメントの手法も活用し、常に自己を客観視し、他者への配慮を欠かさない言動を心がけたい。 （２）国際情勢の激動化と地政学リスクへの対応が、国だけの問題ではなく地方自治体レベルでも敏感になるべき課題であることを認識した。国際的な緊張の高まりは地域経済や住民生活の安全保障に直結するため、動向を注視する必要がある。今後は、住民の安全を守るための地方自治体としての役割を再確認し、議会活動を通じて地域防災やインフラ整備のあり方について検討を進めていきたい。
付属資料	